

## 福井県と東アジア

### 1. 地元企業の海外展開からみた東アジアとのかかわり

地元企業の東アジア進出は 1960 年代後半から

織 維

染色業が合織メーカーの海外シフトに伴う二次加工分野を担う目的で。その後、ニット・レース・縫製・細幅業などが、子供服、寝具、下着などの最終製品を手がける縫製分野で。

眼鏡枠

完成品メーカー、部品メーカー、最終仕上げ（メッキ）メーカーを中心に、工程間分業による進出。

その他

化学メーカー（界面活性剤、農業資材等の製造）、金属部品メーカー（金属部品、切削工具等の製造）等での進出。

### 2. 東アジア進出企業（中国進出企業）の現況

1995 年以降、中国進出企業の目的が現地市場を狙ったものへと変化。

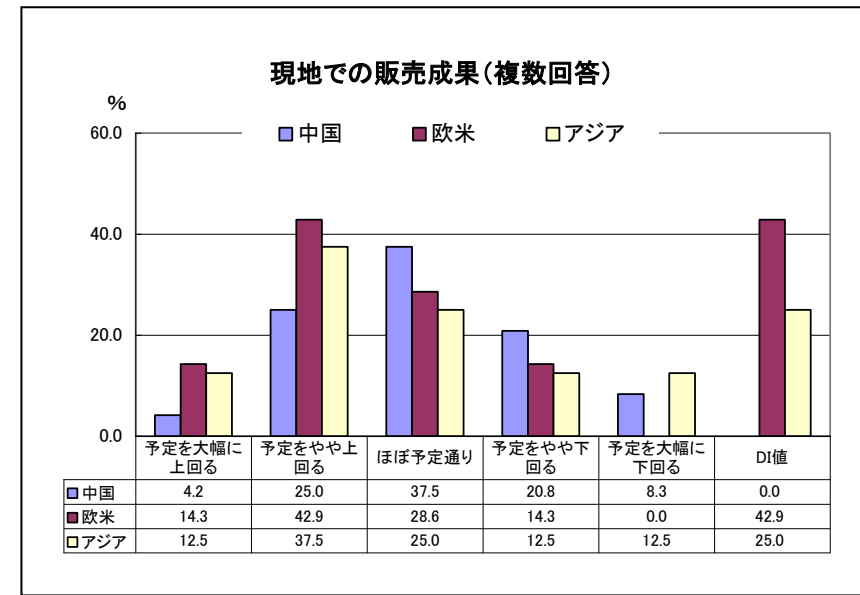
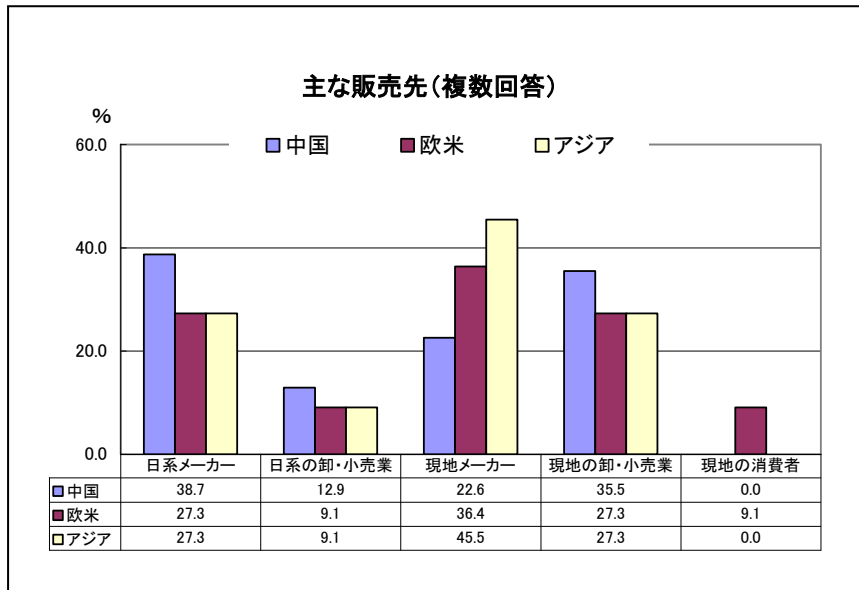
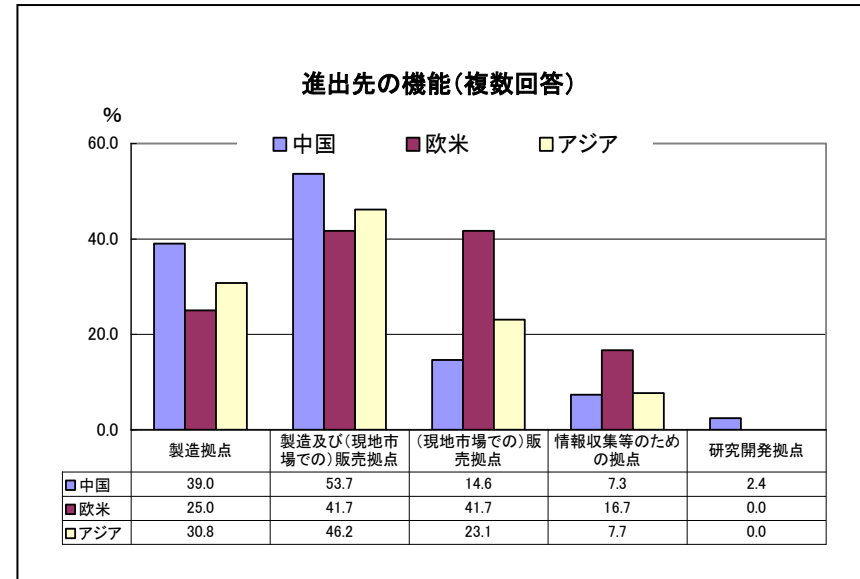
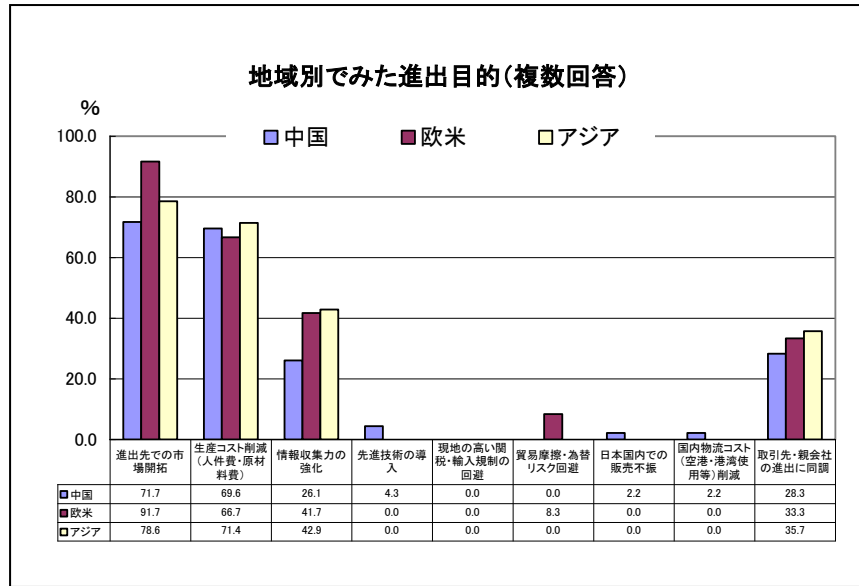
しかし、他地域への進出企業に比べ販売拠点のみの進出が少なく、また、現地での主な販売先は日系企業が主流。

そのため、他地域への進出企業に比べ、成果をあげている企業は少ない。

### 3. 東アジアとのかかわりを進化させる上での課題

東アジア、特に中国国内でのマーケット開拓の可能性は。

ローコスト、労働力確保のメリットが薄れる中国拠点、日本本社の棲み分けをどう図るか。



注：福井県立大学地域経済研究所「県内企業の海外進出に関する現況調査」2005より。